ISSN 1880-6295

バイオなどの新技術と学際的研究で循環的未来と地域貢献を

Ishikawa Prefectural University NEWS

No. 11

石川県立大学広報

2010.12

親子農場観察会　於　石川県立大学附属農場

本号の内容

○教育者表彰 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
○平成22年度プロジェクト研究について ・・・・・・・・・・・・・・・ 2
○第6回響緑祭 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
○親子農場観察会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
○開学記念行事 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
○いしかわ産よい食丼コンテストで銅賞 ・・・・・・・・・・・・・・・ 4
○オープンキャンパス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
○大学院の講義紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
○インターンシップと学外実習 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
○教育実習 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
○大学院入学試験状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

発行 石川県立大学広報委員会
〒921-8836 石川県石川郡野々市町末松 1 丁目 308 番地
みなさんのご意見をお待ちしています
電話 / 076-227-7220　FAX / 076-227-7410
インターネットホームページ http://www.ishikawa-pu.ac.jp/　電子メール kyoumu@ishikawa-pu.ac.jp

教育者表彰

本学　新村知子　准教授（教養教育センター）は、「Project E-xchange：アメリカ人学生とのメッセージ交換を通じた英語コミュニケーション能力養成への取り組み」により、平成 22 年度石川県立大学教育者表彰を受けました。本学の授業「英語ⅡB」の受講生 130 名と、アメリカ・ローズハルマン工科大学で日本文化を学んでいる学生（約 50 名）のビデオやオンライン掲示板による交流を行い、これまで学んできた「英語」がコミュニケーションツールとして使えるものであることを学生が実感し学習意欲を向上させたことによるものです。

プロジェクト研究

本学の競争的研究資金制度である、プロジェクト研究の募集・審査が行われました。今年度から萌芽挑戦研究プロジェクトが新たに設けられました。5 月にプロジェクト研究審査委員会によって下表のように採択され、現在研究が実施されています。

区分	代表者職氏名	学科名等	プロジェクト名
全学研究	教　授　鈴木　正一	生産科学科	本学における、農場の将来展望に関する調査・研究
教育改善	准教授　稲葉　宏和	教養教育センター	数学補習用e-Learningシステム構築の試み
地域貢献	講　師　片山(池上) 礼子	生産科学科	ブルーベリー果実の白斑病（仮称）の原因究明とその防止対策
	准教授　海老原　充	食品科学科	トキの受け入れのための雌雄鑑別技術の確立と希少動物の繁殖
	准教授　桑村佐和子	教養教育センター	白山市と輪島市における学びを支援する人材育成のための社会教育プログラム開発
	准教授　大谷　基泰	生物資源工学研究所	石川県に自生する希少野生植物の保全に関する研究　―白山山系に隔離分布する白花ハクサンコザクラの保全に関する研究―
	准教授　濵田　達朗	生物資源工学研究所	加賀野菜キンジソウの赤紫色の源を解き明かす―優色・優良個体の評価、栽培技術の基盤整備
	助　教　楠部　孝誠	生物資源工学研究所	生ごみコンポストへの地元資材の利用可能性試験
若手研究	講　師　髙原　浩之	生産科学科	稲いもち病菌細胞壁構成分子のプロテオーム分析
	准教授　田中　栄爾	環境科学科	稲こうじ病菌の土壌感染侵入過程の解明
	准教授　松本　健司	食品科学科	胆汁酸吸着能を有する柿由来タンニンの糖尿病への影響
	助　教　小柳　　喬	食品科学科	香気成分の高生産を目指した遺伝子工学的酵母育種
萌芽挑戦研究	教　授　古賀　博則	生産科学科	生物をそのままで電子顕微鏡観察するための、迅速で簡便な試料作製法の開発
	教　授　菊沢喜八郎	環境科学科	地球規模の植生変化に関する研究　―特に葉形質の緯度方向への変化について
学科等企画	教　授　石田　元彦	生産科学科	稲発酵粗飼料収穫コントラクター導入による地域活性化を支援する技術の開発
	教　授　柳井　清治	環境科学科	リモートセンシングを活用した水田環境評価手法の開発
	准教授　松本　健司	食品科学科	石川県産柿の機能性研究
	准教授　竹村　美保	生物資源工学研究所	遺伝子組み換えによるゼニゴケの不飽和脂肪酸組成の改変

第 6 回　響緑祭

平成 22 年 10 月 23、24 日に石川県立大学の大学祭「響緑祭」が開催されました。恒例の野菜販売に加えて花苗の販売も好評でした。吹奏楽サークルやダンスサークルはこの日に備えて日々練習した成果を存分に見せました。また、研究室やサークルの研究活動の紹介もますます充実し、知的好奇心を大いに喚起する学園祭となってきました。

親子農場観察会

本学附属農場において、毎年定例となっている親子農場観察会が 8 月 11 日に行われました。農場で栽培している農作物の収穫や品質の調査を通じて、日頃食べている食物がどのようにでき、その栽培にはどのような苦労があるのかを体験してもらいました。

開学記念行事

5 月 28 日に、ソフトボール大会（第 2 回松野杯）が行われました。空模様の心配を吹き飛ばすような、熱戦が繰り広げられました。午後から学長との懇談会、夕刻からプラザで食談会が開かれました。昼のソフトボール大会の表彰式、サークルの活動紹介、ゲームなどが行われ、学生と教職員がバーベキューを囲んで親睦を図りました。

「いしかわ産よい食丼コンテスト」で銅賞

アグリフォーラムいしかわ、JA 石川県中央会主催の「いしかわ産『よい食丼コンテスト』」で本学いしるサークルの「いしる揚げ丼」が銅賞を獲得しました。これは能登地方の伝統的な魚醤油であるいしるを存分に使った丼です。サークルのメンバーは、いしる独特の臭みを抑えて食べやすく、初めていしるを味わう人にもおいしく食べられる丼をめざしました。研究を重ねて仕上げたタレが絶品だそうです。

オープンキャンパス

石川県立大学オープンキャンパスが 8 月 6 日に行われました。朝から強烈な日差しのとても暑い 1 日でしたが、県内 157 名、県外 81 名の合計 238 名（内女子 144 名）と昨年を上回る多くの参加がありました。

初めに参加者全員に対し、学長の挨拶から始まり、学生部長からは入試やカリキュラムについての説明、生産科学・環境科学・食品科学の各学科長と教養教育センター長、生物資源工学研究所長からの各学科・部門の概要説明がありました。その後、新村知子教養教育センター准教授の「実際の場面で使える英語コミュニケーション能力を身につけよう 」と題する記念講演が行われました。

その後、食堂での学食の試食体験、教員による相談コーナー、本学学生自治会の学生による相談コーナー、学内の自由見学を通して本学の雰囲気を肌で感じてもらいました。

午後からは、大学の講義や実験を実際に体験できる県立大学教員による４つのミニ講義と４つのミニ実験を開講しました。

新村知子　准教授の記念講演
「実際の場面で使える英語コミュニケーション能力を身につけよう 」

ミニ講義　生産科学科
石田 元彦　教授　　「野の草もエサになる」

ミニ実験　食品科学科
後藤 秀幸　教授　　「目で見る納豆の酵素パワー」

大学院の講義紹介

ー生物資源環境地域ビジネス論ー

昨年度に開設された大学院が 2 年目をむかえました。本年度は、新しい講義の一つとして、大学院で修得した専門知識を社会で生かし、ビジネスにつなぐことを学ぶための「生物資源環境地域ビジネス論」が開講されました。本学の教員の「生物生産分野のビジネス」「自然環境と共生する地域経営」「食分野のビジネス」などの講義に加え、（有）すえひろ　北風八紘氏「新しい農業は能登から」、（株）ユニー　百瀬則子氏「ユニーの環境マネージメント」、（社）農林水産先端技術産業振興センター (STAFF) 廣澤孝保氏「食品産業の技術・開発戦略」、日本経済新聞社　村野孝直氏「変貌する食品流通と、その課題」など、講師を招いてビジネスの現場での課題を具体的に理解するとともに、ケーススタディーにより課題解決につながるビジネスモデルを考えました。

受講生のコメント

「生物資源環境地域ビジネス論」では、生物資源環境分野でのビジネスの分析と展望についての講義、外部の第一線で活躍する民間企業の方からの講義、そして最後にケーススタディーとして、それぞれの課題を設定してビジネスモデルを作成し発表を行いました。 ケーススタディーでは近年のリン鉱石枯渇を背景に肥料原料価格が高騰していることに着目し、施肥量低減技術の確立と、肥料の原料として下水や工業排水の処理過程で生じる汚泥を活用したビジネスモデルについて発表を行いました。「生物資源環境地域ビジネス論」は今まで受けてきた講義と異なり、より実践的な講義であるため、来年から社会人となる身としては非常に参考になりました。

（環境科学専攻　M2 勝見尚也）

インターンシップと学外実習

石川県庁、石川県農業総合研究センター、農業法人、いしかわ動物園、食品会社などの様々な団体や企業で本学の学生が学外実習やインターンシップとして、実社会の仕事を体験してきました。それまで漠然としたイメージでしかなかった、それぞれの職業がどのようなものであるかを具体的に学びました。

教育実習

本学学生16名が母校で教育実習を行いました。教えることの難しさを痛感する一方で、教えることの喜びを感じました。また、よりよく教えるためにはより広く深く学ばなければならないと、大学での学習に対する強い刺激となったようです。

平成 23 年度大学院入学試験状況

区分	専攻	志願者数（人）	一般	社会人	留学生	志願倍率（倍）	受験者数（人）	合格者数（人）
前期課程	生産科学	4	4	0	0	0.5	1	4
	環境科学	5	5	0	0	0.6	5	5
	食品科学	10	10	0	0	1.3	10	6
	応用生命科学	5	5	0	0	0.6	5	4
	計	**24**	**24**	**0**	**0**	**0.8**	**24**	**19**
後期課程	自然人間共生	1	1	0	0	0.3	1	1
	生物機能開発	1	0	1	0	0.3	1	1
	計	**2**	**1**	**1**	**0**	**0.3**	**2**	**2**

大学院博士前期（修士）課程では平成23年１月29、30日に、後期（博士）課程では平成23年1月30日に2次募集の試験を行います。

大学の動き

4月 5 日	入学式
5月28日	開学記念日
8月 6 日	オープンキャンパス
9月 3 日	3年次編入学試験
9月 3、4日	大学院入試試験
10月23、24日	響緑祭

<< 編集後記 >>

IPU News (石川県立大学広報)　第11号をお届けします。響緑祭では多くのサークルが日頃の活動成果を存分に発揮し、また「いしるサークル」が「いしかわ産よい食丼コンテスト」で銅賞を獲得するなど、サークル活動がますます充実してきました。昨年度開設された大学院も軌道にのり、いまや後輩への研究指導など研究室でも中心的な役割をはたしている一期生は、来春の修士論文の完成に向けて教員ともども二人三脚で日々奮闘しているところです。

石川県立大学広報委員会